

第5回 体の動きを高める運動部会記録

1 参加者

部員： 河野・古川・畠中・岡田・関川・大川・藤原・坪根・小木曾・鈴木・藤井
アドバイザー：森田先生
担当常任理事： 佐々木先生、 黒澤先生、 高草木先生
担当指導主事：美越先生（チーム指導主事チーフ）

計16名

2 正副から（畠中Tより）

○用語の確認

調研部より、「問い」という言葉を「疑問や気付き」という言葉に置き換えられないか。

- ・夏季合研に向けての資料→今後分担を

3 実証授業に向けて（岡田Tより）

○本時案第2案について

- ・前回からの変更点

正副から出た用語の解釈の変更点については、今後訂正していければ。

- ・指導案に児童の実態を記載。学習課題を見出す力の実態と運動との関わり方について記載。
「面白いから楽しむ、楽しそうだからやってみる」というようなところで満足している。

→課題意識をもって運動に取り組む、目的意識をもって取り組む、課題を達成する喜びを味わわせていきたい。

- ・各領域における学習指導の工夫

①教師の働きかけの明確化 ②第5学年の基となる学習過程の作成 ③新たな運動例の開発

- ・学習過程について

前回の部会から、「動きを選択して行う」ことについて、ある程度取り組む動きをこちらで制限した中で、そのから児童が選択して取り組むことができるようにしていく形がよいのでは。

ある程度、体の動きを高める4要素の枠を決めた中で運動に取り組ませていく形。

時	1・2	3	4	5	6	7～10
取り組む4要素の運動	巧 4年生までの運動経験から 4つ程度の運動を行う。	柔 （選択）		持・力 （選択）		柔・巧 持・力 から選択
教師の教えること	・体の動きの4要素 ・運動の適時性	※検討 ・動きの高まり例「できた」「楽しかった」				

選択するという形を今後6年生でさらに1時間から3時間程度計画していく流れに発展していければ。

・教師の教えることについて（岡田 T 考え）

1 と 2 時をセットで考えていく。2 時までに体ば動きの 4 要素、運動の適時生を伝える。

3 から 6 で、高まりの例を伝えながら子供たちがそれを実感しながら、7 から 10 で目的（意識）をもって取り組んでいく。

○本時案について（岡田 T）

3 パターンを用意

第 1 パターンは、4 年生までの学びを振り返り、運動プロモーション動画を見て、「多様な動きをつくる運動と、体の動きを高める運動との違いはなんだろう？」という共通な課題を設定する。その後、その違いを意識しながら運動に取り組み、最後に体の動きを高めることについて振り返るという流れになる。

前回の部会で、「そもそも共通な課題は必要なのかどうか」、「違いは何だろう？というように投げかけた時には、違いはこうだというように、その子自身がもうすでに答えをもってしまう」という意見もあったので、それをもとに、共通な課題ありバージョンと共通課題なしバージョンを用意。

第 2 パターンは共通課題あり、体の動きを高める運動のスタートということで、体の動き高める運動を楽しむというところからスタートする。

多様な動きをやってみて、子供たちに、つくと高めめるだから、運動プロモーション動画を見て、動画の中の子供たちは何を楽しんでいたのかを投げかけ、共通な課題を設定していくという流れ。

体の動きを高める運動の楽しさって何だろうと子供たちに投げかけながら運動していく。

第 3 パターンは、運動プロモーション動画を見て、運動をやってみる。共通な課題をもたずにスタートする。そのあとの展開の流れは同じになる。

○全体のことについて美越先生より

・単元計画について

学習指導要領の解説に単元計画をデザインするよう記載されている。

例えば 8 時間計画であれば、どのようにその 8 時間計画を考えていくのか。

岡田 T から 2 時間セットで考えていくという提案があったがそれはよいと思う。

平成 25 年の全国発表の時には、例

第 1 時には知識及び技能 2 時は思考力、判断力、表現力等というように、2 セットで回していく。運動内容が変わっていくので、子供の学習性をどう生んでいけばいいかを課題にしていた。同じ 2 時間 1 セットを繰り返していけば、子供たちの学習性があるという考えであった。

毎時間動きや内容が変わると教師のマネジメントが多くなってくる。後半が選択になってくるので、どこまで選択できるようになるか。子供たちの学習性はそこまで高くない。大人のわがままにならないよう、しっかり単元計画はデザインしていくとよいのでは。

・学習過程の中で、3 から 8 時、運動を通して子供たちが学習課題を見出していると示されているが、「選ぶことを見出す」という捉えでよいのか。部会の捉えをきちんとしておくこと。

「一人一人が課題を見出している」という捉えを。

○グループ協議より

【河野 T 関川 T 畠中 T 藤原 T 黒澤先生】

・「選ぶと見出すの捉え」について

自己の課題を見出しているから運動や動きを選んでいる。

・学習過程について

単元をつらぬくものとして、「体の動きを高めよう」というようなものをもっているが、ロードマップでクラス全体としての「こうなりたい、目指したい」というものを設定した後に、一人一人が学習課題を見出して運動に取

り組んでいく。

第1時での共通課題を設定するのは難しいのでは。ロードマップを作成した段階で一人一人の課題へ。

また、4要素の枠を学習過程に記載することについては、なくともよいのではという考えと、5年生の段階では、4要素の枠を示した方がよいのではという2つの考えが出た。

巧みな動きを行う授業では、教師のマネジメントが多くなりがちだが、運動の行い方を動画や資料で示すことにより、教師の負担が減ってくるので、どう運動の行い方や例を示していくかがキーとなってくる。

【小木曾 T 岡田 T 鈴木 T 佐々木先生】

- ・共通課題について

共通課題がないと学びになりづらいのでは。

考えることができる児童は自己の課題を設定できるが、共通課題がないとブレてしまう児童もいることが予想される。「運動を楽しもう」ということを目的にして授業を展開していくのがよい。

- ・学習過程について

3時間目から選択となっているが、12時間目で多様の楽しさに触れつつ、2時間の後半から高めるという意識に以降していければよい。34時間目は12時間目と同じ運動に取り組むが、意識が変わった状態で取り組むと高めることが何なのかということが子供たちにおちていく。

- ・佐々木先生補足説明

4年生からの多様から5年生で高めるとなった時に、最初から一人一人がめあてをもつのは難しい。滑らかな接続をしていくためには、極論を言えば、本来は一人一人のめあてをもたなければならないが、最初のハードルは高いので、その滑らかな接続の手だてをどうしていくか。それが共通の課題になっていくのでは。

【大川 T 古川 T 坪根 T 美越先生】

- ・一般化に向けてどうしていくかというキーワードがどの項目でも上がった。

- ・共通課題について

あった方がよいのでは。6年生の最後で、自分たちで課題を見出して、めあてをたてられる、マイスタートができるようになればよいのでは。

どのような共通課題がよいのか。課題が広がってしまう懸念があるので、目的の違いを見付けることになってしまうという危惧もある。違いに気付かせるのは何のためか。高める運動の特性に気付かせるための問い。

昨年度の畠中 T による授業の「体の動きを高める運動って何だろう？」という共通課題の方がいいのでは。

目的意識を見出せるようにしたい。プロモーション動画で運動のやり方に目がいってしまった児童が多く、何で高めるのかという問いをもつ児童が少なかったので、意図的に、何で高めるのか、目的をもって高めるために行うというように5年生ではやっていく必要がある。

見出すことについては、ただ単に楽しそうだから選ぶというのではなく、必要感をもった選択、実感をもって次は〇〇を選択するようにしていきたい。実感と必要感がキーワード。

美越先生より、そもそも具体的な子供の姿をどう捉えているのか。

部員の中でも多少のズレがあるのでは。

第1時で見出したい児童の具体的な姿、単元を通して見出したい児童の姿等の共通理解を。

本時のテーマ、単元を通してのテーマ、学びのロードマップの形も具体的な形を。

河野先生より

- ・共通課題について

もちろん「体の動きを高めよう」ということを共通なものとしてもっている。それをロードマップを使って、今の自分たちと学習後の自分をみんなでまとめてつくっていった時に、最後みんなの目標とする姿を共通の課題？としてもっていい。しかしそれを共通課題と言ってしまうと、課題は解決していくべきものなので、学級全体で解決していくものとちょっと違ってくるのではということなので、共通課題は必要ないのではということ。また、学級全体の共通課題を毎時間設定していくとなると、それはどのような意味があるのか。一人一人が解決したい課題は異なるのに、わざわざ毎時間体の動きを工夫して高めようとか、ポイントを見つけて〇〇とい

いうようにやっていく必要があるのかということで、学級全体の共通課題は必要ないのではということ。
みんなが目指す目標みたいものはある。毎時間やることは違うのでそこで学級全体の共通課題を無理やり設定していく必要がないのでは。
どのグループもあまり異なった認識をもってはいないと思う。

第12時は課題をもてるようにするのがねらい。第12時でやってみたことを通してロードマップを作ったとして、学級全体で学習後の自分たちをみんなで確認して、そこに向かって一人一人が学習課題をもって学習していく流れ。

佐々木先生

子供一人一人によって高めたいことや身に付けたいことは違ってくる。本来毎時間子供一人一人めあてが違ってくる。しかし一人一人が行っている運動がそれぞれが違ってくれば、それは学習にならない。だからグループで行う。それが協働的な学びになってくる。一人一人の児童の願いや思いも違うから、本当は一人一人に応じた学習過程があってもいいが、それは学習性が成立しなくなってしまうので、グループで学習計画をたてていくのもよい。その中で、同じ動きを行っているけれども、一人一人の身に付けたい動きや高めたいこと、めあてが変わってくる。5年生の段階は共通した運動をやらせてよいのでは。

河野 T

色々な場で色々な運動を行わせると教師のマネジメント、指導が大変なので、どのような運動例をどのように示していくかが大切になってくる。
子供がある程度自分たちで行える巧みな動きのは運動例が今のところ少ない。

畠中 T

最初は7、8割の児童が、多様のように「運動が楽しかった」で終わるが、2割ぐらいの児童が「これって高まったのかな？」というような疑問をもつ子がいる。それをどう生かしていくか。
1時は楽しんで終わるので、それを無理に目的をもつんだよっていう形よりは、子供からのどうすればいいかな、なぜだろうという疑問を拾って2時に繋げていくのがよいのでは。
我慢の第1時になる。

森田先生

昨年の畠中先生に授業の成果を全面に生かして行ってほしい。
畠中先生の言葉がけの仕方を手本に。
伝えたいことをこらえて、子供たちの問いを引き出すように。
畠中先生が苦しかったこと、伝えなかった内容を、今回は子供たちに一斉に伝えるべき、教えるべきこととして整理していけば、共通の課題と問いが見えてくる。

畠中 T

「楽しもう」だと運動自体を楽しんでいるが、それは体の動きの高める運動の楽しさではない。
目的にもっていきたい。教師側からどのように出すか、、うーん。

岡田 T 畠中 T

1、2割ぐらいの児童の(「これって高まったのかな?」)というような疑問をもった?子をすくい上げて2時へ。
オリエンテーションで伝えないでスタートする第1時なので、「楽しもう」が適切かどうかは検討。

楽しもう=やってみように近いもの。
体の動きを〇〇
体の動きを高めようでもよいのでは。

やってみよう、高めようでも子供が思考できる言葉がけを。
5年生の最初だから多様の入り口から入って、楽しむだけで終わらないような工夫を。
初めてのことから、やってみようしか子供からは出てこないのでは。やってみなければ分からない。

岡田 T

共通の課題ありバージョンを洗練化させて、来週の25日に専門委員会で提示する。

河野 T

皆さんに考えてもらいたいこととして、

- ・「体の動きを高めよう」ということを課題と言ってよいのか。「楽しもう、高めよう」も課題と言ってよいのか。
- ・共通課題を設定するとして、この後毎時間学級全体の共通課題を設定していくのか。

岡田 T

共通課題は最初は設定するが、どんどんなくなっていくイメージ。

ただ、クラスを同じ方向に向かわせたいので、毎時間そういったもの？は提示して意識付けはできるのでは・・・

河野 T

学級全体で学びの方向付けは行うということ。

岡田 T

学習カードとロードマップは昨年度のブラッシュアップしたものを（河野 T）

4 次回の部会に向けて考えてきてもらいたいこと

- ・「体の動きを高めよう」ということを課題と言ってよいのか。「楽しもう、高めよう」も課題と言ってよいのか。
- ・共通課題を設定するとして、この後毎時間学級全体の共通課題を設定していくのか。
- ・第1時と2時は何をやらせたいのか。（これまでは、問いもたせて課題を見出すところだった）
- ・学習過程の動きの選択で、巧み、柔らかさ、持続、力というように限定していくのかどうか。それとともっばらうか。

5 専門委員会との部会について

各地区の専門委員に周知を。参加できる専門委員の人がいたら Zoom の ID とパスを伝える

6 常任理事の先生、美越先生より

美越先生

- ・自然と使用している言葉について（一般化に向けて）

ロードマップ、共通の課題、問い 等 学習指導要領に載っていない言葉は丁寧に説明を。

見出す＝選ぶは少し無理がある。

学習課題を見出すために、動きを知る。学習課題を見出すために取り組むと捉えると・・・知識及び技能？

- ・「楽しもう」でいいのは、運動領域の中で体ほぐしだけ。体の動きを高める運動は、「体の動きを高めるのが楽しい」ってならなくてならない。器械運動も「技ができるのが楽しい」純粋に運動が楽しいのは体ほぐしだけなのでその捉え違いには注意を。「動きを高めるのが楽しい」ところまで目指してほしい。

黒澤先生

- ・共通課題と学習課題は同じなのか違うのかがまだ不明確な部分がある。
- ・学習性、学習とは何か。グループでの学習について
- ・専門委員が部員の先生がほとんど。どうしていけばいいのか。今後の形について。

佐々木先生

昔から悩んでいるものは変わらないものが多い。

体操領域でのオリエンテーションは3時間ぐらい使ってやっていた。効率よく行うために、動きを体験する中でオリエンテーションを簡潔にするために考えていた。今の時代に合ったものをやってほしい。